

F-REIの最近の動き (令和7年12月)

福島国際研究教育機構

Fukushima Institute for Research, Education and Innovation (F-REI)

F-REIのWebサイトに掲載されている「F-REIの最近の動き（令和7年4月～）」から令和7年12月分を浪江町役場で抜粋しております。詳細はF-REIのWebサイトをご覧ください。
(<http://www.f-rei.go.jp/>)

令和7年12月4日（木） 福島イノベ構想参画促進セミナーin会津若松が開催

12月4日、「福島イノベ構想参画促進セミナー」が、会津若松市のアピオスペースで開催されました。

本セミナーは、福島県が主催し、F-REIが後援となって開催するもので、浜通り地域等の産業を回復するため、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」への理解促進や興味の喚起、参画に繋げるとともに、企業の連携促進の契機となることを目的としています。

今回のセミナーでは、F-REIからは村田文雄広域連携監が「創造的復興への挑戦」をテーマにF-REIの取組を紹介したほか、イノベーション・コースト構想推進機構の取組説明や、イノベ地域で活躍されている企業から、福島イノベーション・コースト構想への参画事例や発注ニーズを紹介いただきました。



令和7年12月9日（火） 出前授業（ふたば未来学園高等学校）を開催

12月9日、ふたば未来学園高等学校の1年生約10名を対象として、出前授業を開催しました。

今回の出前授業は、同校が実施する"エネルギー問題について学ぶ海外研修"に参加する学生を主な対象に、研修の事前学習として福島県の再生可能エネルギーに関する取組を学ぶために実施されました。村田広域連携監が講師を務め、「福島県再生可能エネルギー推進ビジョンと福島国際研究教育機構（F-REI）について」の演題のもと、授業を行いました。

授業では、福島県再生可能エネルギー推進ビジョンに基づいた福島県のエネルギー問題への取組、再生可能エネルギーの導入状況について紹介しました。また、2021年に策定された福島県再生可能エネルギー推進ビジョン2021で追加された取組みの柱の一つ"水素社会"に触れ、F-REIで進められているエネルギー部門の研究についても紹介しました。



令和7年12月17日（水） 出前授業（福島高等学校）を開催

12月17日、福島高等学校のスーパーサイエンス部に所属する1、2年生約20名を対象として、出前授業を開催しました。

今回、F-REIの土壌・植物マルチダイナミクス研究ユニットの二瓶直登ユニットリーダーが講師を務め、「悩んでOK！ 遠回りが強みになる～これまでに歩んだリアルなキャリア～」の演題のもと、授業を行いました。

授業では、二瓶直登ユニットリーダー自身のキャリアと研究の道に進んだ経緯、現在行っている研究の概要について説明しました。授業開始時には農林水産業の分野に関心が薄かった一部の学生たちからも様々な質問が出るなど、受講した学生たちにとって、農林水産業分野に興味・関心を持つきっかけとなった様子でした。



令和7年12月22日（月） F-REI座談会（ロボット分野）を開催

12月22日、F-REI座談会（ロボット分野）を南相馬市の福島ロボットテストフィールドで開催しました。

本座談会では、超大型ロボット・パワーロボットに係る先端技術の紹介やF-REIのロボット分野における研究開発事業などについて講演を行いました。その後のトークセッションでは、10月に開催された「WRS過酷環境F-REIチャレンジ」で活躍された南相馬ロボット産業協議会及び会津大学、新技術実装連携”絆”特区に指定されている福島県を交えて、「福島から広がるロボット産業の未来像」をテーマに多様な視点から活発に議論いただきました。

その他にも、会場内にて「WRS過酷環境F-REIチャレンジ」で入賞したMISORA 2 及びMARS ZEROの展示や、MISORA 2 によるデモンストレーションを行い、会場を沸かせました。当日はオンラインを含めて約130名の方々に参加いただき、盛況のうちに終わることができました。



令和7年12月22日（月） 第8回HOMEあう会を開催（エフとも協力）

12月22日、双葉町のFUTAHOMEにて、地域交流イベント「第8回HOMEあう会」を、エフとも協力のもと開催しました。

今回は、「YOUはどうしてフクシマへ？」をテーマに、震災以降、国内外から福島に移住し、さまざまな活動に取り組んでいる方々をゲストにお迎えし、福島を選んだ理由や、日本や福島での暮らし、まちづくりへの思いなどについて、それぞれの視点からお話いただきました。F-REIからは、外国籍職員であるサイエンス・コミュニケーターがゲストスピーカーとして登壇し、来日から福島に至るまでの経緯や、現在の福島での仕事、日々感じていることなどを共有しました。

当日は、参加者同士が互いの背景や想いに耳を傾ける中で、新たな気づきや繋がりが生まれ、福島との関わり方の多様さや、それぞれがこの場所に立っている意味を改めて見つめ直す、深い対話の時間となりました。



令和7年12月24日（水） 研究体験講座を開催

12月24日、環境創造センターにて、福島県、日本原子力研究開発機構（JAEA）、国立環境研究所（NIES）及び福島国際研究教育機構（F-REI）の4機関連携による研究体験講座が開催されました。

本講座には、会津学鳳高校の1年生41名が参加し、その内の9名がF-REIのコースに参加しました。F-REIのコースでは、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信分野 地域環境共創ユニットの青野辰雄ユニットサブリーダーが講師を務め、「放射線を探せ-ノーベル賞の発明を100均で作ろう-」のタイトルのもと、「放射線計測器による放射線の測定により、放射線の特徴を理解する実験」、「身近な材料による霧箱の作成及び霧箱を用いた放射線の観察」を行いました。

参加した学生は自身で考えて霧箱の作成や放射線の測定に取り組むことで、放射線への理解や興味を深めた様子でした。





F-REI

福島国際研究教育機構